

日本語研修コース(23期・24期)
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期) I
日本語・日本事情教育)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007672

I 日本語・日本事情教育

日本語研修コース 23 期・24 期

熊井 浩子

1. コースの概要

23 年度後期（第 23 期）は、正規生としては教員研修留学生 1 名、協定校からの交換留学生 2 名が非正規生として受講した。このうち正規生である 1 名は日本語既習者であるため、研修コースに籍を置きつつ、実際の科目は日本語教育プログラムの中級レベルを受講し、残りの 2 名も、国で 2 年程度日本語を勉強した既習者であったが、基礎力に不安があったため、復習もかねて本来の日本語 1（ゼロスタートクラス）をいつもよりもスピードを速めた形で進めた。タイプや得意分野の異なる 2 名であったが、お互いの苦手な部分を補い合い、協力し合う形で授業が進められ、大きな成果を上げることができた。24 年度前期（第 24 期）は、正規生の配置がなかったため、研修コース 15 コマ中の 11 コマを日本語研修コース、残りの 5 コマは日本語教育プログラムの足りない部分を行う補講授業として、分けて開講した。この研修コースには引き続き 23 年度後期に研修コースで学んだ交換留学生 2 名が受講し、レベルは 2 名に合わせて、日本語 2（初級後半）とした。

その結果、23 期・24 期ともに、全受講者が 80%以上の出席及び所定の定期試験を受験するという修了要件を満たしたため、正規生には修了証、非正規生には受講証が授与された。

2. 授業期間

第 23 期 平成 23 年 10 月 11 日～平成 24 年 2 月 14 日 15 週

第 24 期 平成 24 年 4 月 10 日～平成 24 年 7 月 27 日 15 週

3. 第 23 期

3. 1. クラス編成

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語教育プログラム	1	タイ	教育学研究科・研究生（教員研修留学生）
日本語 1	2	アメリカ*	人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生）
	3	アメリカ*	人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生）

*：非正規生

3. 2 時間割

日本語 1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
3・4時限 10:20～11:50	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
5・6時限 12:45～14:15	漢字	作文	聴解	会話	日本の生活
7・8時限 14:25～15:55					

3. 3. 授業内容

日本語 I (入門)

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ/週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級 I・II (スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級 I・II (同上)

『日本語かな入門 英語版』(国際交流基金)

会話 1コマ/週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーとの会話。校外学習の計画作り。

使用教材：適宜

聴解 1コマ/週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。日常生活において基本的なコミュニケーションができる

内 容：テープ・ビデオ・会話などの聞き取り

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）テープ・ビデオなど適宜

作 文 1コマ/週

目 的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内 容：事実文・意見文などの作成・段落構成や文の機能の理解・文集作成

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

漢 字 1コマ/週

目 的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内 容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ/週

目 的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、日本文化・社会に対する理解を深める。

内 容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なこと。見学などを行なう。

使用教材：適宜

4. 第 24 期

4. 1. クラス編成

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語 1	1	アメリカ*	人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生）
	2	アメリカ*	人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生）

*：非正規生

4. 2 時間割

日本語 2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10	文法	読解・漢字	文法	文法	プロジェクトワーク
3・4時限 10:20～11:50	文法	作文	文法	文法	プロジェクトワーク
5・6時限 12:45～14:15			聴解・話し方		

4. 3 授業内容

日本語研修コース 日本語 2 (初級後半クラス)

目標：初級レベルで学んだことを復習し、更に発展を目指す。日常生活や勉学生活におけるトータルなコミュニケーション能力を養うことを主な目的とする。

目的：日本語の基本的な構造を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を发展させる。

文法 6コマ/週

目的：初級後半レベルに必要な文型や言い回しを学び、更に日本語の基礎を固めるとともに、文章や文字によって書かれたものを読み、正しく内容を理解する。

内容：文型や表現の導入と口頭練習、速読・精読

使用教材：『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）、『中級を学ぼう』（スリーエーネットワーク）

作文 1コマ/週

目的：自分の関心のあるテーマについて、レポート作成できるようにする。

内容：日本語のレポートの構造や表現を学び、実際にレポートを書く。

使用教材：『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）

読解・漢字 1コマ/週

目的：日本語の正しい漢字の読み方・書き方を身に付ける。

内容：生活や勉学に必要な漢字を学び、いろいろな分野の語彙を増やす

使用教材：『テーマ別中級までに学ぶ日本語』（研究社）、『みんなの日本語』初級Ⅱ漢字英語版（スリーエーネットワーク）、『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初中級』（アルク）

聴解・話し方 1コマ/週

目的：日本語の音声のみから必要な情報を得られるようにする。聞き取りに必要な

話し言葉の音声知識や文法知識を学ぶ。

内 容：『中級へ行こう』の聴解部分を練習し、内容の定着をはかるとともに、ある程度のスピードの聞き取りができるようになるための練習。

使用教材：『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）・『会話に挑戦』（スリーエーネットワーク）、『なめらか日本語会話』（アルク）

プロジェクトワーク 2コマ/週

目 的：教室内外での活動を通して、日本語四技能の総合的な運用力を身につける。

内 容：自分でテーマを設定して調べ、発表あるいは討論したりする。

使用教材：適宜

平成 23 年度日本語予備コース（第 3 期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。

2. 授業期間

第3期：平成23年10月11日～平成24年2月13日

3. 受講生

プレースメントテストを実施し、初級終了程度の日本語力を持つ研究生6名と工学研究科1年生1名が受講することになった。7名は全員が80%以上の出席率であった。

4. 日程と時間割り

〈日程〉	10月4日（火）	プレースメントテスト
	10月7日（金）	ガイダンス
	10月11日（火）	コース開始
	12月8日（木）	中間試験
	2月10日（金）	期末試験
	2月13日（月）	コース修了